

【優秀賞】

想いを受け継ぐ

音更町立共栄中学校

3年 高田 莉央

北方領土は日本の領土。だけどロシアに不法占拠されているというイメージが私の中で大きくありました。北方領土について社会科の授業で学ぶ機会は何回かあったものの、私自身知っていることは少なく語れるほどの知識がないと感じたので元々島民だった方による文書を見たり、動画を視聴したりしてみました。私は一つ心に残っている文章があります。

「領土返還も半世紀たった今、ますます遠くなってしまった様な気がします。」

元島民の方は文書でこう綴っています。領土を返してほしい。自分の生まれた場所へ一度でいいから帰りたい。そんな声がたくさんあり、苦しくなりました。

自然豊かな地で平和に暮らしていた島民たちの生活はあっという間に奪われました。ソ連の兵隊が来て、全てを失われたと言っても過言ではないと思います。元島民の方々の思いを知った私は一つ感じたことがあります。今になってロシアの不法占拠を完全解消するのは少し難しい。だけど日本人、ロシア人、共存するということは0%、不可能なことではないと思いました。元島民の方々の思うところはたくさんあると思うので難しいかと思いますが対面して会議を行い、徐々に話を進めていくのはどうかと思いました。会議を定期的に行い、日本側の主張、ロシア側の主張どちらもお互いに聞いて両国納得できるような話し合いをしてほしいと考えています。まずは話し合い。話し合いが重要になってくると思います。

北方領土について知らない人が増えてきているのも事実だと感じています。もちろん私も全てを知っているわけではなく、むしろこの作文をきっかけにさまざまなことを知りました。なんの罪もなくこの四島に住んでいた人々は追い出されてしまったのです。どれだけ辛い話でしょう。私たちは元島民の方々の想いを継いでいくことが使命であると思いました。同情する、共感するということが重要ということではありません。その島民の方々の思いをまずは知って未来へつないでいくことだと思っています。何も知らずに生きていると、もちろん次世代へこのような話をつないでいくことはできないし、うすれていくと思います。島民の方々を思うと、これらのことは絶対に忘れてはいけないことであるのと共に、こういったことがあったんだと伝えていく必要があります。伝えることができる人材は、まさに私たちです。北方領土についてもっと幅広く、多くの人々に知ってもらえるように自分も何かできることがあれば積極的に取り組みたいと思いました。